

＜参考＞第 1 次実施計画事業の進捗状況（令和 4 年度実績による判定結果）

	事業数	目標達成数	未達成数	達成事業数の割合
保全	15	3	12	20%
教育	12	5	7	42%
調査研究	1	1	0	100%
リ・クリエーション	8	0	8	0%
動物福祉	6	2	4	33%
基盤整備	10	7	3	70%
合計	52	18	34	35%

※達成率は、小数点以下四捨五入

達成している 18 事業について

- ・ 資料 2 - 2 左側の黄色塗りつぶし欄の事業。
- ・ 入園料見直し、業務用無線機・電話交換機の更新、動物園条例の制定などは当初予定していた実施内容を 2022 年度までにすでに完了したもの。なお、自動券売機の導入は未達成としているが、導入により目標としていた成果は得られていないが、券売機の導入自体は完了しているため、完了した事業に含めている。
- ・ 特に希少動物の生息環境保全への支援、寄附収入・広告料収入の増加や調査研究（学会・研究発表会参加）などは、ビジョン 2050 の各指針に基づいてこれまで以上に取組を強化していこうと注力していった結果、目標を大きく上回ったものと考えている。

未達成の 34 事業について

- ・ 入園者数やイベントへの参加者人数・イベント実施回数を目標に設定していたものが 11 事業あるが、コロナ禍のため入園・参加・実施を制限・自粛したものがあり、残念ながら多くの入園者・参加者数・実施回数にはならなかった。
- ・ 類人猿館改築やアジアゾウ飼育技術向上繁殖推進などは、「完成」「出産」を目標設定していたため 2022 年度末時点では未達成であるが、もう間もなく達成する見込み。その他動物福祉評価の実施も同様（3 事業）。
- ・ 低い目標数値の場合、取組達成後はその数値の維持になりがちであることを考慮し、2018 年度実績からさらに高い目標。しかしながら、この 52 事業全ての目標達成には、さらなる人的・資金的・施設的資源が必要と考えているが、札幌市として現状を超える資源投入は困難な状況。これらの課題があるため、目指していた目標までは到達できていないが、事業自体を全く着手できなかったものはほぼなく、次期 5 年間につながる取組ができていると考えている。